HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	献辞
Author(s)	松井, 安信
Citation	北海道大學　經濟學研究, 28(1)
Issue Date	1978-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/31403
Type	bulletin (article)
File Information	28(1)_Pi-ii.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

献　　辞

北海道大学経済学博士酒井一夫先生は53年４月１日をもって定年退官されることになった。

先生は昭和16年３月京都帝国大学経済学部を卒業後，同大学院に入学し研究に従事されたが，同大学院在学中に応召された。

戦後復員され，国民経済研究協会，経済安定本部の研究員を経て，昭和24年８月北海道大学法文学部経済学科に助教授として迎えられた。

それ以来29年間，今日の経済学部の創成と発展に尽され，昭和36年７月教授に昇任し，貨幣・金融論講座を担当されてきた。この間大学院経済学研究科をも併せ担当され，学部学生のみならず，大学院学生の指導にも熱意をもってあたられ，十指を数える研究者をはじめ多くの優秀な人材を，学界や社会に送りだされている。

先生の研究業績は貨幣・金融問題を中心に多方面にわたっているが，特に金問題とインフレーションおよび国際通貨論については常に学会の第１線で理論的研究と論争をリードされてきた。その関連する著書，学術論文は60編余を数え，昭和36年７月刊行の『金の物価形成理論』により北海道大学から経済学博士の学位を授与されている。

先生の研究業績は，第１に，専攻の貨幣・金融論の分野では，昭和31年以来10数年つづき，全国的に多数の学者が参加して展開されてきた,「現代不換銀行券論争」において，論争点がもっぱら不換銀行券の本質と運動法則に集中していた欠陥と一面性を糺し，貨幣・信用の立体的構造―預金通貨と不換銀行券の立体的・二重構造--を理論的・歴史的に検証し，この論争を理論的に整序・発展させ，Ｊ.Ｍ.ケインズの「管理通貨論」をも研究の射程に収めて現代物価構造の「実質性」と「名目性」との多元重層性あるいは変動為替相場制下の国際通貨＝不換ドルの本質と流通根拠を解明する重大な方法論を提示された。第２に，地域経済の研究分野では，北海道経済と資金循環の構

造分析に対する貨幣・金融の基礎理論の応用，北海道拓殖銀行史の監修・指導がその代表的業績であろう。

さらに，学内運営においては，前述の学部の創設・整備のほかに，評議員（昭和40年４月～49年３月）大学院委員会委員（昭和47年３月～49年３月，同52年４月～）および経済学部長事務取扱・大学院経済学研究科長事務取扱昭・47年３月～49年３月）として大学行政の枢機に参劃され，学部および大学院の充実・発展に多大の貢献をなされた。

他方，学外にあっては，北海道総合開発委員会委員，北海道地方労働委員会公益委員，北海道総合経済研究所特別研究員および北海道固定資産評価審議会々長たどに任ぜられ，地域社会の発展にも寄与された。

学界活動としては，昭和50年１月から連続２期，日本学術会議会員としてわが国の学術振興，大学の自治向上に活躍されるとともに，金融学会，証券経済学会，国際経済学会，経済理論学会等に所属し，理事・大会役員として学界の発展に寄与されている。

われわれはいまここに学部創成期いらい研究・教育・学部運営と改革に孜々として励まれ，後身を励まし，指導してこられた先生をエルムの学園から送りださねばならぬことに寂寥の感を禁じえない。幸いに，北海道の山スキーをこよなく愛された先生の身心は若者を凌ぐようにお見うけする。先生には退官後も研究・教育活動を続けられるとうかがっている。学術会議会員としても愈々先生のご活躍が期待できる。今後もこれまでどおりお元気でわれわれ後身をご指導下さるようお願いして，先生ご退官の記念論文集の粗辞としたい。

昭和53年３月

北海道大学経済学部長　松　井　安　信